



SecurityScorecard

&

 **CADENCE**
BANK

導入事例

<https://www.isid-security.com/ssc/>

g-security@group.isid.co.jp

©2019 INFORMATION SERVICES INTERNATIONAL-DENTSU, LTD.

- ・本資料は、SecurityScorecard 社の資料（原本）を ISID が翻訳したものです。
誤訳等の無きように心がけてはいますが、実際のニュアンスなど、異なる場合がございますので、ご容赦ください。
- ・原文もご希望の場合は、あわせて送付させていただきます。
- ・本資料に記載の内容は、ISID では責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・本資料の記載内容の転載をご希望の場合は、ISID までお問合せください。

クライアント

Cadence Bancorporation は米国テキサス州ヒューストンに本拠地を置く地方銀行で、2018年3月31日現在、1,200人の従業員と110億ドルの資産を有し、提携企業を通してアラバマ州、フロリダ州、ミシシッピ州、テネシー州、テキサス州で65拠点を展開しています。同行は法人、中堅および中小企業、消費者向けに、多種多様な銀行業および金融ソリューションを提供しており、法人向けビジネスバンキングから資産管理、クレジットカードまで、サービス内容は多岐にわたります。また顧客に対し、最先端のオンラインおよびモバイルソリューション、インタラクティブな現金預払機（ITM）、ATM サービスも提供しています。Cadence Bank, N.A.は Cadence Bancorporation の子会社です。

課題

Cadence Bancorporation は、事業拡大と機能強化をサードパーティの取次店に依存しています。このような関係は、同行にとってリスク要因にもなり得ます。[The Bank Director's 2017 Technology Survey](#)によると、回答者の44%以上が自分の使っている銀行の取次店がサイバー攻撃やデータ漏えいの被害に遭った場合、銀行のセキュリティ対策状況に不安があると回答しています。

そのため、Cadence Bank は時間とリソースを費やして取次店候補のデューデリジェンス（企業評価）取次店を行い、サイバーセキュリティのリスクを適切にコントロールできているか評価することにしました。同行は事前審査プロセスを改善する作業を継続的に行っています。また新たな CIO を迎えたことで、サイバーセキュリティに対する認識が一新され、取り組みがいっそう強化されています。

テクノロジーリスクとコンプライアンス担当ディレクター兼 SVP(シニア・バイス・プレジデント)の Laura Buckley 氏は次のように説明しています。「これまで弊社は取次店自身に Shared Information Group (SIG) アンケート用紙に記入してもらうことでデューデリジェンスを行っていました。その際に、サービス申請時には、たとえば Service Operations Control (SOC) レポート、ISO (27000) 認定書、PCI-DSS 証書といった書類も確認して判断していました。しかしこのような手順ではその時に記入してもらった書類からしかデューデリジェンスを行うほかないため、取次店側の主観に偏ってしまいます。ところが SecurityScorecard を利用することで、第三者による客観的な判断と、ある時点での判断ではなく継続的な評価が可能となります。また取次店を継続的に評価し、その結果と主要なリスク指標を経営幹部と IT リスク管理委員会に毎月提出できるようになりました。」

先ごろ、付近の銀行での情報漏えいがニュースになったことにより、同行では効果的で最適化されたデューデリジェンスプロセスが緊急の課題になりました。幹部やマネージャーから取次店の評価方法についての質問が増え、質問内容も厳しいものになったため、Buckley 氏のチームはリスク評価と対処のために SecurityScorecard を導入しました。